

ワークショップ4

日赤愛知県支部のボランティア活動の現状と今後

横井利津子(日本赤十字愛知県支部)

今回、愛知県支部における赤十字ボランティア、つまり赤十字奉仕団についてまとめましたので、発表します。

赤十字奉仕団規則では「赤十字奉仕団は赤十字の博愛人道の精神に基づき、明るい住みよい社会を築きあげていくために必要な実際的事業に奉仕するものとする。」とあります。

赤十字奉仕団は、各市区町村の地区・分区のもとに組織され、地域における赤十字事業の担い手として活動していただいている地域赤十字奉仕団と青年や学生より組織され、赤十字事業の重要な役割を果たしていただいている青年赤十字奉仕団、専門性を活かした活動を実践しようとする人達の集まりでできた赤十字特殊奉仕団があります。

愛知県支部における奉仕団数は全部で85団あり、地域奉仕団は65団、青年奉仕団7団そして特殊奉仕団13団が結成されており、団員数は平成27年度末で2万2千157人です。

今回は、地域奉仕団の活動について述べます。

地域奉仕団の活動としては、防災ボランティアの活動として、地域の防災訓練時に炊き出しや災害時義援金の募集など積極的に活動していただいている。また、献血推進事業としは献血の受け付けや呼びかけを行っている団もあります。特徴ある活動としては、保育園での紙芝居の読み聞かせや、学校の養護教諭が留守中、養護教諭の代理として保健室に来る児童の様子を観たり、話を聞いたりと学校と連携をして活動をしている奉仕団もあります。

しかし、すべての団が活発に活動しているわけではありません。地域の状況や団の状況により、活動が低迷している団も多くあります。

そこで、地域奉仕団の現状(問題点)と課題をまとめました。

1. 現在、各地域においてさまざまな専門知識を持つボランティア団体が活動しており、伝統ある赤十字奉仕団が埋没してしまう。

2. 地域奉仕団=炊き出しと、奉仕団の活動が固定化している団が多い。
3. 災害時地域での支援活動を実施するには他団体との連携が必要だが、多くの団が他団体との協力関係が構築されていない。
4. 新規入団者が少なく、団員の世代交代が進みにくい。

次に地域奉仕団の課題として、

1. 地域奉仕団が地域での存在感を強める必要がある。
2. 地域でのボランティアニーズを見つけ、活動に繋げる。
3. 他団体との協力関係を構築する。
4. 多くの人に活動を知ってもらい、入団に繋げる。
5. 母体(婦人会や更生保護女性会等)の活動と連携して赤十字活動を主として実施する組織を構築し、赤十字奉仕団として活性化を図ることが必要。

以上の点を踏まえ、地域奉仕団活動の方針を次のように策定しました。

- 奉仕団が他の団体にない強みを持つこと。
- 災害時赤十字防災ボランティアとして、他団体との繋がりを持ち、地域で活躍すること。赤十字奉仕団だからこそ、赤十字事業の専門性を活かした活動を実施することで、地域奉仕団の存在感を高めることができます。

地域奉仕団が地域のニーズに合った活動ができるために次のように整理をしました。

1. 東日本大震災以降、自助・共助の重要性が問われ、地域での防災力を高める必要があると言われている。
 2. 少子高齢社会により、地域での高齢者支援や子どもを守る必要性が重要視されている。
- すでに地域では高齢者を対象としたサロンの開設や、主任児童委員が主体となって子育てサークルなどを行っている所が多くあります。
- そこで、地域奉仕団に対する重点事業として、

次のような事業を計画し、地域奉仕団の活性化を図ることにしました。

1. 地域奉仕団員に講習指導員を取得してもらい、団員と共に地域に高齢者支援に役立つ健康生活支援講習、子どもや成人の事故予防や応急手当、一次救命処置などの知識・技術を習得してもらう幼児安全法および救急法の講習普及を担ってもらうこと。
2. 地域での防災・減災の取り組みをサポートできる人材の育成として、防災ボランティア・地区リーダーの養成を実施することにしました。

平成24年度より地域奉仕団が講習指導員資格を取得し、町内会・自治会、地域内のサークル、学校、保育園・幼稚園などさまざまな所で地域に根ざした講習普及を実施し、地域から広く認知される地域奉仕団を目指しています。

平成27年度末においては、30団、87名の地域奉仕団に講習指導員を取得していただきました。

防災ボランティア地区リーダーとは、各市町村での赤十字の災害救護活動がより充実したものになるよう、赤十字防災ボランティア活動を取りまとめるリーダーです。

防災ボランティア・地区リーダー養成研修会では、赤十字防災ボランティアとしての役割について

て等の講義や実技では、テントの設営方法、災害ボランティアセンターの運営訓練等を実施しています。

各地域奉仕団では、地区リーダーを中心として、小学校での防災の授業や地域の防災訓練で炊き出しを教えたりするなど、自団の団員だけでなく、地域にも防災・減災の取り組みを進めています。平成27年度末では44団177名の団員を養成しました。

今後の課題として、専門性を活かした活動ができる奉仕団においては、地域からのニーズに応えることができ、地域に存在感をアピールすることができました。

多くの団員が活動に参加をしてくれ、団としての活動範囲が広がった。講習を受けた方が奉仕団の活動に興味を持ってくれ、入団してくれた。などの評価があり、目標としていた地域での存在感を増すことができた奉仕団も以前より増えました。

しかし、まだまだ強みが持てなく活性化が図れない奉仕団もあります。各地域奉仕団が地域での存在感を強めるため、支部の役割としては、地域の状況を分析し、奉仕団活動に活かせるよう、情報提供や情報を共有して、将来に向けた活動を見つけられるよう、支部、地区分区担当者、そして奉仕団との関係づくりが重要と考えています。